

法人（事業所）理念		すべての子どもたちが安心して自分らしく過ごし、一人ひとりが持つ力を伸ばしながら、その子らしく成長していけることを大切にします。		
支援方針		① 安心できる関係づくりを最優先する 職員との信頼関係と見通しの持てる環境づくりを通じて、お子さまが「ここにいて大丈夫」「自分らしくいられる」と感じられることを、支援の出発点とします。 ② 個別支援と集団支援を両立する 一人ひとりの発達段階や特性、得意なこと・苦手なことに応じた個別支援を行うとともに、小集団での活動や遊びを通じて、人との関わり方やコミュニケーション、社会性を無理なく育みます。 ③ 日々の生活や将来につながる力を育む 身の回りのこと、気持ちの伝え方、時間やルールの理解など、日常生活や社会生活に必要な力を、一人ひとりの発達や課題に合わせて支援します。「できるようにする」ことだけを目的とせず、自分で考える、選ぶ、伝えるといった経験を大切にし、その子らしい自立につなげます。 ④ ご家族と一緒に歩む支援を行う 日々の対話や個別相談を通じて、お子さまの様子や成長、課題を丁寧に共有します。ご家族の思いや困りごとにも寄り添いながら、家庭と事業所が同じ方向を向いてお子さまの成長を支えていきます。		
営業時間		10 時 00 分から 17 時 00 分まで 土・日・祝日・年末年始及び12:30-13:30を除く	送迎実施の有無	あり <u>なし</u>
		支 援 内 容		
本人支援	健康・生活	一人ひとりの発達段階や生活状況に合わせて、身支度や持ち物の管理、時間を意識した行動など、日常生活に必要な力を身につけられるよう支援する。また、自分の体調や気持ちの変化に気づき、必要に応じて周囲に伝えられる力を育む。		
	運動・感覚	一人ひとりの感覚特性や身体の発達に合わせ、遊びや運動を通して、身体の使い方や力の調整、バランス、協調性などを育む。本人が楽しみながら取り組める活動を取り入れ、身体を動かす経験を広げる。		
	認知・行動	一人ひとりの認知特性や理解の仕方に合わせ、見通しを持つことや、自分で考え、選び、取り組む経験を大切にする。遊びや学習、日常生活の中で、文字・数・時間・空間・ルールなどへの理解を深め、生活や学習につながる力を育む。		
	言語 コミュニケーション	自分の気持ちや考えを、その子に合った方法で表現できるよう支援する。また、職員や友だちとのやり取りを通して、相手の話を聞く、伝える、尋ねる、助けを求めるなど、生活の中で必要となるコミュニケーションの力を育む。		
	人間関係 社会性	安心できる大人との関係を土台に、友だちとの遊びや小集団活動を通して、人との関わりを広げる。相手の気持ちや自分との違いに気づくこと、気持ちを切り替えること、ルールや約束を理解することなどを、その時々状況に応じて一緒に考えながら支援する。		
家族支援		・日々の対話や連絡帳等を通じて、事業所での様子や成長を共有するとともに、家庭での様子や困りごとを把握し、必要な支援と一緒に考える。 定期的な個別面談（個別支援計画の見直しを含む）や、必要に応じた相談支援を行う。 ・ご家族の思いや子育てに対する考えを尊重し、家庭と事業所が同じ方向を向いてお子さまの成長を支えられるよう連携する。 ・きょうだいを含めた家族全体の状況にも配慮し、必要に応じて関係機関との連携につなげる。	移行支援	・在籍校と必要に応じて情報共有・連携を行い、学校生活と事業所での支援につながりを持たせる。 ・進級・進学等の環境の変化を見据え、本人や家族の意向を確認しながら、必要な支援や関係機関との連携を行う。 ・将来の生活を見据え、本人が地域や社会の中で自分らしく生活していくために必要な力を育む。
地域支援・地域連携		・母体保育園を含む法人内で情報共有や連携を行い、相互の専門性や支援の経験を生かす。 ・学校、相談支援事業所、医療・福祉機関等と、必要に応じて情報共有や連携を行う。 ・地域の関係機関や自立支援協議会等とのつながりを持ち、地域の中で切れ目のない支援につなげる。	職員の質の向上	・法人内研修や事業所内研修を定期的 to 実施し、発達支援、障害特性、権利擁護、虐待防止等について学ぶ機会を設ける。 ・外部研修への参加や専門職等からの助言を通じて、専門性の向上を図る。 ・日々の支援について職員間で振り返り、ケース会議等を通じて支援方法や関わり方を検討し、支援の質を組織として高める。
主な行事等		・季節や文化に触れる行事（七夕、夏祭り、ハロウィン、クリスマス、節分、ひな祭り等） ・避難訓練、防災に関する活動 ・その他、子どもたちの興味・関心や発達段階に応じた活動		